

## 【小論文問題】

次の文章を読み、問に答えなさい。

ウェールズ (\*1) は独自言語を民族の<sup>(a)</sup>象徴に選んだ。話者数が減ったゆえに選んだのか。すでに 18 世紀、ウェールズ語絶滅の可能性は見えていたのだ。そして 1901 年の調査は象徴的だった。この時、話者数が全国民の 49.9% と半数を初めて割る。以後、その数は激減する。

北西部——ウェールズ語文化圏。カナーヴォン城から西へ。ペンローズ村に英国空軍爆撃学校の跡地がある。周囲は木立に囲まれた、自然豊かな場所。そこに 3 人の肖像を彫った碑がある。彼らはサンダース・ルイス (\*2)、ルイス・バレンタイン牧師、D.J.ウィリアムス。彼らこそ、ウェールズ語によるウェールズ再興を掲げ、文字通りその行動に「火をつけた」最初の人々だ。1936 年 9 月、彼らはウェールズ語文化圏でのイングランド軍駐留に反対し、英国空軍爆撃学校に火を放った。ロイド・ジョージ元首相 (\*3) は、彼らの暴力行為を「臆病な方法」と強く非難する。だが同時に、「私も 40 歳若ければ」と愛娘に宛てた私信に綴った。そしてまさにこの行動が、20 世紀ウェールズ復興運動を起こすきっかけとなる。

ウェールズ愛国党(現在のウェールズ党、プライド・カムリ) 創立者の一人でもあるルイスは、ウェールズ語話者によるウェールズ王国復興を目指した。彼の理想は、先祖代々の土地を耕す、農村地域共同体だった。ゆえにウェールズ出身の英語作家を非難する。英語文化圏の中心、南部「<sup>(1)</sup>丘陵地帯」の工業都市解体を試みる。そして 62 年 2 月 13 日、ウェールズ語とウェールズ国家復興を訴えた放送「言葉の<sup>(b)</sup>運命」を行う。それを受け、翌 63 年に圧力団体ウェールズ語協会が結成された。同 63 年、カヨ＝エヴァンズを中心に武装集団ウェールズ解放軍も結成される。いずれも目的のためには、実力行使を辞さない(\*4)。だが民衆は彼らを遠巻きに眺めた。よってアイルランドのような流血の歴史だけは、ウェールズは免れた。

中部国境地帯(ボーダーランド) ——イングランドと国境を接するため、イングランドの影響が大きい地域だ。ここに私が、幾度となく通った村がある。バスも通らない、丘の谷間にある<sup>(2)</sup>過疎の村マナーヴォン。しかしながらここは、ローマ軍ブリテン島支配以前からの先住民の末裔が棲む。これは H.J.フライ教授により、1939 年に科学的に証明されている。

この村に 1942 年、1 人の若い牧師が赴任する。彼はルイスの農村共同体思想に、<sup>(3)</sup>傾倒していた。若さゆえ、情熱もあった。現代詩を詠む力もあった。そして彼はこの教区のはずれ、ケヴン・コッハの荒野の丘を自らの詩の<sup>(c)</sup>舞台に選ぶ。そこに住む孤独な農夫イアゴ・プリザーフを描き、これがケルトの末裔だと、ウェールズ民族の本来の姿だと民衆に説く。牧師／詩人の名は R.S.トマス。20 世紀ウェールズ最大の英語詩人だ。トマスは英語話者のウェールズ人でも、英語を媒体にウェールズに貢献できると身をもって証明した。

南部——英語文化圏。南部は丘陵地帯を中心に、18～19 世紀に工業化し、急速に発展・英語化する。当初開かれた鉄鋼業の労働力は、ウェールズ語話者だった。そのコミュニティにはウェールズ各地の人間が集まった。その様はまるで、ウェールズ文化博覧会のようなだったという。だがここにイングランド人が数多く炭鉱を開く。主要産業も鉱山から炭鉱へと移る。すると英語話者が多く移住し、英語コミュニティを形成。ここではウェールズ語は不要だった。ウェールズ人炭鉱労働者は、バイリンガルとなる。学校ではウェールズ語を喋った生徒に、「ウェールズ語禁止(Welsh Not)」と書かれた木の札を罰則として首からかけた。ここから英語話者となる新生児が生まれるのも、時間の問題だった。

この工業都市では、新しいものが至上だった。古き囚習や伝統は<sup>(4)</sup>唾棄／破棄された。これを<sup>(5)</sup>扇動したのが、当時新興宗教のメソジストだ。今でも丘陵地帯のロンザ丘陵を歩くと、1905 年建造の教会(チャペル)に数多く出合う。メソジストが起こした、1905 年の宗教復興運動の結果だ。かつて民衆は教会(チャペル)での合唱と日曜

学校を通じ、ウェールズ語と民族精神を学んだ。だが宗教熱が下火となった今、その多くは閉鎖された。炭鉱も閉鎖された。

カーディフはかつて丘陵地帯の石炭を<sup>(d)</sup>輸出する港町として栄え、1955年にエリザベス女王によって、ウェールズの首都に認定される。首都ゆえに、様々な人々がここには集まる。そのカシードラル（大聖堂）通りの51番地に、かつてプライド・カムリ（ウェールズ党）の本部があった。その近くには、ウェールズ解放軍の創始者カヨ＝エヴァンズの名を冠したパブがある。そこはウェールズ語話者のためにと、北部出身のオーナーがその名を被せた。

ウェールズ語をめぐる<sup>(e)</sup>状況も確実に変わりつつある。67年、93年にはウェールズ語法案が通過。ウェールズ語は公用語となる。94年には全体の98.4%の小学校でウェールズ語教育を行うようになり、2001年にはウェールズ語話者は23.5%まで回復した。

（中略）聞くところによれば今、世界では2週間に1つの言語が死滅している。だがウェールズ語は生き延びた。そしてウェールズの未来を担う議会は今、ケルト語に祖を求める独自言語と、第2言語として世界一のシェアを誇る英語に同等の価値を置く。その議事堂セネッズは、この再開発の進む港から世界を見つめている。

（永田喜文「英語か？ ウェールズ語か?!——北、南、そして中部国際地帯」『ケルトを旅する52章』明石書店、2012年、pp.300-305。）

註

\*1 ウェールズは13世紀にイングランドに征服され、1536年の合同法で正式に併合された。

\*2 劇作家／詩人。20世紀ウェールズ文学の巨匠。ノーベル文学賞に2回ノミネート。プライド・カムリの創設者の一人。

\*3 イギリスの元首相ロイド・ジョージはウェールズで生まれ、第一言語はウェールズ語であった。

\*4（中略）ウェールズ語協会は座り込み運動を得意とし、ウェールズ解放軍はカペルケラン・ダム開発に反対して爆破事件を起こすなど、いくつかの爆破事件に関与している。

（註は原著のものに一部補完している。）

【問1】 下線部(a)～(e)を英語にきなさい。

【問2】 下線部(1)～(5)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

【問3】 上記の文章を読み、絶滅の危機におちいったウェールズ語をウェールズの人々はどのようにして守ってきたのか、彼らの歩んできた歴史を300字以内の日本語でまとめなさい。

【問4】 民族にとって独自言語はどのような意味を持つのかについて自分の考えを400字以内の日本語で述べなさい。